

膳・銭・五徳・庖丁・陶磁器（越前・唐津・伊万里・瀬戸・志野）などは、橋に近い川底と橋の下に厚く堆積していた捨石と流入土砂の中から発見された。

8 木簡の釈文・内容

木簡は二点出土したが、一点は墨痕がほとんど残っており、読み取りは困難である。

(1) ・「

問屋九平殿

木の本村

ハセ

問屋喜右

小山吉平

舎

フシミ

〔栄カ〕
屋長右衛門殿

荷主

オオツ

堅田屋半平殿

カイ

八木吉左衛門殿

貳百五十

正田中川安平殿

ツルガ

山下権右衛門殿

三国宮腰屋多吉殿

フク

輪違

戊三月十一日出

道海安全 大和十市郡
木之本村

小山吉平

163×72×16 011

(2)

矢



225×70×7 011

(1)は、大和国から福井まで運ばれた物品に付けられたものである。大津の堅田屋、海津の八木吉左衛門、正田の中川安平、三国の宮腰屋多吉は文献史料からその存在がわかる宿の問屋で、この付札が、湖西を通過して敦賀へ運ばれ、敦賀からは舟で三国へ行き、最終目的地の福井で廃棄されたことがわかる。

9 関係文献

福井県立博物館『遺跡は語る ここ20年の発掘成果から』（一九八五年）
（清田善樹）

向日市文化資料館発行

『よみがえる古代の文字』

——近畿出土の文字資料が語る都城・郡衙・寺院・集落——
一九八六年一〇～一二月に開催された特別展示の図録。近畿を中心に集めた墨書土器・木簡・漆紙文書等発掘された文字資料のハンディな史料集になっている。

（B五版、三二頁、一九八六年一〇月、頒価三〇〇円、
二〇〇円、〒617京都府向日市寺戸町南垣内四〇の一 向日市文化資料館）